

ほほえみ

がん
特集⑤

長く続く声がれ、
それは「喉頭がん」かもしれません

耳鼻咽喉科 教授 おおつか こうじ
大塚 康司

最新医療を知ろう

最新の超音波画像
診断装置を導入しました

臨床工学部 主査 仲本 敏之

- 職場探訪 -眼科のご紹介-
- トピックス
 - ・ 母性看護専門看護師(CNS)資格を取得しました！
 - ・ 新人初期研修医挨拶
 - ・ 新型コロナウイルス感染症のワクチンについて
- 医療連携紹介
- 病院からのお知らせ

東京医科大学茨城医療センター

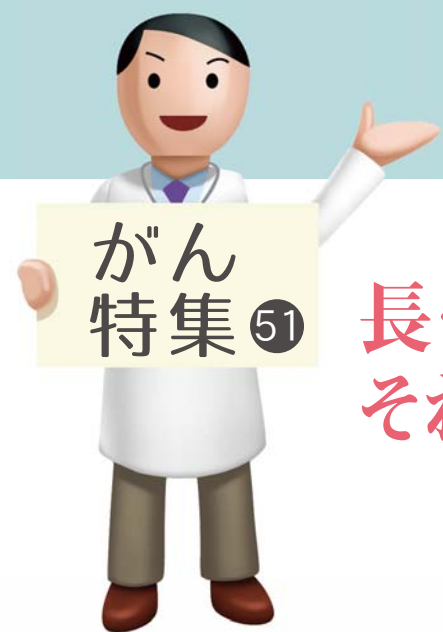
<http://ksm.tokyo-med.ac.jp/>

発行日：2021年4月1日

発行人：病院長 小林 正貴

発行所：東京医科大学茨城医療センター

〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1 TEL029-887-1161 (代)



地域がん診療連携拠点病院より、がんの情報をお届けします。
当センターは平成19年1月31日付けで厚生労働大臣より、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。地域におけるがん診療の中心的役割を担う病院として、がん診療に精通した医師、専門看護師が地域医療機関と連携し、地域住民の皆様に質の高いがん診療、情報を提供して参ります。

長く続く声がれ、それは「喉頭がん」かもしれません



耳鼻咽喉科 教授
おおつか こうじ
大塚 康司
日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医

喉頭がんとは

喉頭は、いわゆる「のどぼとけ」のところにある器官で、気管と咽頭をつないでいます。役目のひとつは気道の確保です。口と肺を結ぶ空気の流れで、飲食物が肺に入らないよう調節します(誤嚥防止)。もうひとつは発声です。喉頭のなかには発声に必要な声帯があります。この声帯のある部分を声門といい、それより上を声門上、下を声門下と呼びます(図1)。喉頭がんの部位別の比率は、声門がんが60～65%、声門上30～35%、声門下は1～2%です。喉頭がんは年齢では60歳以上に発病のピークがあり、発生率は10万人に3人程度です。男女比は

10:1で圧倒的に男性に多いという特徴があります。危険因子としてはタバコとアルコールです。

症状

発生部位により初発症状は異なります。声門がんでは、ほとんどの方が嗄声(させい)(声がれ)を訴えて受診します。進行してくると血痰や呼吸苦が生じてきます。頸部リンパ節への転移は比較的少ないのが特徴です。声門上がんの早期の症状は喉の異物感や、食事の時、固形物を飲み込んだ時に痛みが出現したりします。他の部位より比較的早期から頸部リンパ節が腫れて気づかれるこ

ともあります。進行すると声門へがんが及び、嗄声や呼吸苦が出てきます。声門下がんは進行するまで症状がでない事が多く、進行するとやはり嗄声や呼吸苦が出てきます。

このように喉頭がんといってもその部位によって症状の現れ方には違いがありますが、声門がんが多いため、嗄声を訴えて受診される方が圧倒的多数を占めます。

検査および診断

嗄声などの喉症状で耳鼻咽喉科を受診されると、検査として喉頭内視鏡を行います。胃内視鏡と違い食事制限はないので当日に行えます。細くて柔らかい内視鏡を鼻から挿入して、まずは腫れているところがないかを見ます。次に患者さんに「えー」「いー」と発声してもらいながら観察します。これは声帯が動くかどうかを調べるため、がんが浸潤すると声帯が動かなくなることがあるからです。また粘膜に不整がないかも観察します。最近では、狭帯

域光観察(Narrow Band Imaging: NBI)という技術が取り入れられ、通常光とNBIを見較べることにより、粘膜表面の微細な病変を早期に発見することが可能になりました。当科でもNBI機能を搭載したハイビジョン内視鏡を各診察室に配備して診療に当たっています(図2)。声門がんの喉頭内視鏡所見を提示します(図3)。病変があれば、内視鏡で見ながら一部をつまんできて組織検査に提出します。1～2週間でがんかどうかの診断結果がでます。また首を触診することによりリンパ節の転移がないかを調べます。転移リンパ節は通常のリンパ節より大きく硬く触れます。さらに視診、触診でわからない深部などを評価するため、CTやMRI、超音波などを施行し、最終的にがんの進行度と頸部リンパ節転移の有無と遠隔転移の有無を評価して病期を決めます。



図2 当科で使用しているNBI機能を搭載したハイビジョン内視鏡

決めます。

病期

がん自体の進行度は4段階に、頸部リンパ節転移は4段階に、遠隔転移は2段階にそれぞれ分類されたうえ、それらを組み合わせて病期を4段階に分類します。I期から進行するにつれIV期へと分類しますが、通常I、II期は早期、III、IV期は進行がんと評価されています。

治療

がんの治療は手術、放射線、抗がん剤が三本柱といわれています。そのうちの放射線は早期喉頭がんの治療の中心となります。放射線治療では喉頭は残りますので比較的自然の声が残ります。しかし、かけられる量にも限界がありますので、早期がんでも放射線をかけてもがんが残った場合には手術を組み合わせます。また進行喉頭がんでは手術が中心となりますが、場合により放射線、抗がん剤を組み合わせます。手術には大きく分け喉頭部切術

と喉頭全摘術があります。喉頭部分切除術は声帯を一部残す手術です。質は悪くなりますが声を残すことができます。喉頭全摘術は部分切除の適応を逸脱した再発早期がんや進行がんに行われ、声は失われます。そこで術後食道発声や電気喉頭など代替音声で補うことになり練習が必要となります。頸部リンパ節転移に対しては手術が中心となります。左右どちらかの片側か、両側の頸部郭清術を行います。これらの治療法は、がんの進行度や部位だけでなく患者さんの年齢、全身状態、職業、社会的条件なども考慮にいたったうえで最終的に選択されます。

最後に

喉頭がんの中では声門がんが多く、早期に発見できれば放射線で完治することが出来ます。声がれが生じて、1～2週間で治るようならよいのですが、1ヵ月以上続くようでしたら、是非、耳鼻咽喉科を受診して下さい。



図3a 早期喉頭がん内視鏡所見(通常光): 向かって左の声帯(患者さんの右の声帯)に粘膜不整を認める。



図3b 早期喉頭がん内視鏡所見(NBI): 同部位の粘膜不整部分の色調が変化し、より腫瘍の境界が明確になった。

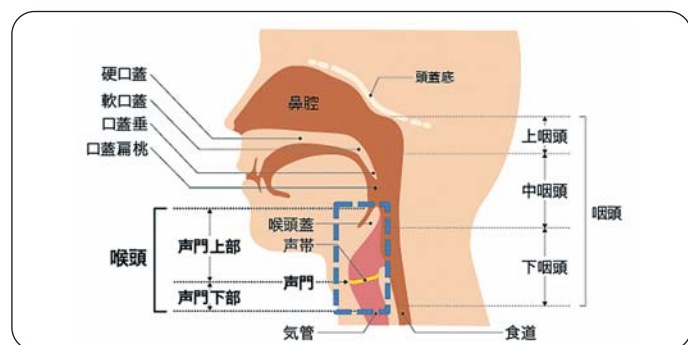


図1 喉頭および周辺臓器の解剖(国立がん研究センターHPから引用後改変)



最新の超音波画像診断装置を導入しました

臨床工学部 主査
仲本 敏之

このたび腎臓内科で、最新のポータブル超音波画像診断装置 FUJIFILM FC-1(富士フイルムメディカル株式会社製)を導入しました。血液透析を行う際は、通常手首付近の動脈と静脈を皮膚の下で繋げる手術をして、内シャントと呼ばれるものを作成します。そうすることにより、動脈の血液が静脈に流れ、血流の増えた静脈に血液透析用の針を刺して血液透析を行います。今回導入したポータブル超音波画像診断装置の一番の特徴は、手術で作例した内シャント、透析用の針を刺す静脈などの評価に特化した仕様になっており、主な機能の一つに血流量自動計測があります。この機能は、内シャントを流れる血流量、血管抵抗指数、血管経などを自動で計測します。自動で計測することにより、超音波画像診断装置を操作する人の経験や技術の差が無くなることを期待されています。また、ポータブルなのでベッドサイドでも行うことが可能で、異常の早期発見にも

つながります。画像も、以前の超音波画像診断装置と比べ鮮明になり、細い血管に針を刺す時に、画像で血管の太さや深さを確認しながら、安全に針を刺すことが可能になりました。血流量が少なくなった内シャント機能不全の治療の際に、今までは放射線透視下で造影剤を使用し、病変部

を確認しながら治療を行っていましたが、今回導入した超音波画像診断装置を併用し治療を行うことで、放射線の被ばく量、造影剤使用量の軽減が期待されます。その他にも、様々な機能が搭載されており、安心安全に治療が行えるよう役立てていきたいと思っています。



職場探訪



茨城における 地域眼科医療を担う 医療を目指して

茨城医療センター眼科では 6 名の常勤医により専門性の高い眼科医療を実施しており、網膜硝子体疾患、難治性白内障、緑内障、ブドウ膜炎、眼腫瘍、神経眼科といった幅広い分野に対応しています。特に網膜硝子体疾患は茨城県全域の中核医療施設としての地位を確立しており、外科的治療(サージカル・レチナ)は岩崎教授が、内科的治療(メディカル・レチナ)は三浦教授が中心となって行っております。

眼科手術では、27 ゲージ硝子体手術、黄斑下手術、増殖性硝子体網膜症手術、ロングチューブシャント緑内障手術といった難易度の高い手術を積極的に実施し、難治

眼科のご紹介

例に対応しています。また令和 2 (2020) 年からは多焦点眼内レンズを導入し、患者様の幅広い要求に対応しています。

メディカル・レチナは、各種薬剤の実用化によって、急速に進歩した分野です。平成 16(2004)年 9 月に、光線力学療法を茨城県内で最初に導入し、抗 VEGF 薬硝子体注入療法を積極的に取り入れています。また加齢黄斑変性治療薬の臨床試験にも積極的に参加しており、医療の先進性の維持に努めています。

学術面では、筑波大学およびインディアナ大学と眼科画像診断技術開発に関する共同研究を行っており、光干渉断層計や偏光画像解析に関する多くの研究成果を発表してきました。

今後もスタッフ一同、日々研鑽を積みながら、茨城県における眼科高度医療に寄与してまいりたいと思います。

(眼科 科長 岩崎琢也)



母性看護専門看護師(CNS)資格を取得しました！

私は、母性看護専門看護師(以下母性CNS)の資格を去年取得しました。

専門看護師(以下CNS)は高度看護実践、相談(コンサルテーション)、調整(コーディネーション)、倫理調整、教育、研究の6つの役割を持ち、自らの専門分野においてその役割を発揮します。CNSは現在13の分野があり、全国で約2500人のCNSが活躍しています。私は助産師として働いていましたが、妊娠・産褥婦の変化するニーズに応えるためには母性における広くて深く満遍ない知識や技術の習得が必要であると考え、CNSになるために大学院へ進学しました。

母性CNSは茨城県内では2人目、全国でも80人程度とCNSの中でもあまり人数が多い分野ではありません。私は、CNSの6つの役割を発揮しながら周産期を中心に、様々な職種と協働しながらすべてのライフステージの女性とその家族を対象にケアを提供しています。その中でもサブスペシャリティとして特に力を入れて活動しているのは、特定妊婦といわれる精神疾患を合併した妊婦や、DVや虐待など社会的にハイリスクな妊婦への援助です。当院では、MFICUやNICUといった周産期における集中治療が行えないため産科的ハイリスクの妊産褥婦を受け入れることができません。当院の役割は産科的ローリスク、ミドルリスクの妊婦を積極的に受け入れ、ハイリスクに移行しないよう妊娠中の管理を行っ

ています。加えて当院には、近隣の周産期医療センターにないメンタルヘルス科があり、特定妊婦を中心とした精神疾患合併妊産褥婦管理が可能となっています(医師が管理可能と判断した事例に限る)。精神疾患合併妊産褥婦は増加傾向で、妊娠中から退院後も継続的な支援が必要であり、地域と連携した継続的な支援システム構築がとても重要となってきます。入院中だけに留まらない継続した援助を提供するため、妊娠中は助産師外来における関わり、退院後にスムーズに地域の援助に移行できるよう同意を得て妊娠中に情報を提供し、早期から地域と連携を図るようにしています。

今後は茨城県における周産期の地域性を考慮しながら、CNSの役割を発揮していけたらと思います。そのためにはまず、院内における母性CNSとしての立ち位置を固め、院内でCNSの役割を発揮するためにはどうしていくべきか試行錯誤しながら尽力していきたいと思っています。

中央4階病棟 看護師 小林 由美



新型コロナウイルス感染症のワクチンについて

皆さんも、テレビで幾度となく新型コロナウイルスのワクチン接種の話題について目にしていることと思います。世界的には、すでにいくつかの製薬メーカーのコロナワクチン接種が始まっています。

2月14日にファイザー社のワクチンが、わが国で承認され2月17日からは医療従事者への接種が始まりました。当院にも2月19日にワクチン専用の低温フリーザーが搬入されています。

気になる効果ですが、ワクチン摂取し約100日後には発症予防効果は発症する確率が20分の1となるという報告があります。ワクチン接種が進んでいるイスラエルでは接種後13～24日で発症リスクが51.4%減少したという報告があり1回目の接種から約2週間で効果が始まると考えられます。ただし今のところ、十分な効果を得るためには2回摂取が必要と考えられています。またファイザー社製ではありませんが、同じmRNAワクチンであるモデルナ社のワクチンでは、4ヶ月間効果が持続しているデータもあります。実際の予防効果についてはまだ分かりません。国内は未承認ですが、ジョンソン&ジョンソン社のワクチンは冷蔵庫保存で1回投

与となっており2月27日に米国で使用承認されました。

国内のワクチン接種ですが、厚生労働省は優先接種対象者を協議しており、医療従事者以外に、高齢者、基礎疾患を有する方を優先することを決定しています。また高齢者等が入所・居住する社会福祉施設などの職員も高齢者に次ぐ接種順位となるようです。ワクチン接種において、妊娠中の安全性に関するデータがほとんどないため妊婦さんは接種努力義務からは外れています。授乳中の方については、母乳への影響はないとされ接種については問題ないと考えられています。副反応ですが、アナフィラキシーは海外での発症率はインフルエンザよりも低いことが確認されています。

さて当院のワクチン事情ですが3月11日に、1箱(195バイアル)が搬入されています。

3月15日より医療施設に従事している方に接種が始まりました。

これを機に、1日も早い終息を迎えたいと願っております。

薬剤部 松本晃一



新人初期研修医挨拶

この度、初期研修医として茨城医療センターで研修することとなりました中原昌俊と申します。

学生時に実習で様々な科を当センターで体験させていただきました。その中で医師同士はもちろん、他職種の方々との関わりも深く接しやすいことや患者さんに早期から向き合え、自分の力を活かせる研修内容に心を打たれ、この病院での研修を強く希望しました。大学病院でありながら地域密着型の医療を提供している当院で研修できることに感謝し、より多くのことを学び、後悔せぬよう1日1日を大切に研修医一同、日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します



左より
中原昌俊、葛西星慶、佐久間千晶、葉梨真由子、押田樹羅、小泉雄生、早川曉彦





医療連携紹介

当院との医療連携登録医療機関を紹介するコーナーです。
第60回目は、皮膚科内科クリヤマクリニック(神栖市)をご紹介します。

皮膚科内科クリヤマクリニック

美容皮膚科・内分泌内科

神栖市神栖1-17-1ソレイユプラザ

TEL 0299-91-1188
FAX 0299-94-3710



院長
くりやま げんしん
栗山 源慎

2019年4月神栖市セントラルホテルそばで開院し、今年で2周年を迎えます。皮膚科・美容皮膚科、内科を標榜し、各種レーザー治療や顔面へのボトックス、ヒアルロン酸注射なども行っております。特に、ヒアルロン酸注射では顔面の各動脈検査を事前に行い、他施設より高いレベルで安全に配慮して治療を行っております。一般皮膚科ではアトピー性皮膚炎や尋常性ざ瘡(ニキビ)の患者さんが多く、貴院皮膚科と連携してアトピーの自己注射治療の導入にも力を入れております。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。



診療
受付時間

火曜日・金曜日 10:30~18:00 水曜日・木曜日 9:30~18:00
土曜日 9:30~15:30

休診日 日曜日・月曜日・祝日

病院からのお知らせ

◆新型コロナウイルス感染症対策にかかる寄附へのお礼と公表について

当センターにおける新型コロナウイルス感染症対策に対し、下記の方々より心温まる寄附をいただきました。心から感謝しお礼申し上げます。

●寄贈者、寄贈団体

- ・公益社団法人 茨城県看護協会 飲食物等
- ・茨城県看護連盟 飲食物等
- ・平戸治夫 様 支援寄付金(2回目)
- ・日本マクドナルドフランチャイジー(有) タイメイコーポレーション
代表取締役社長 石井 泰明 氏(食事券)

